

令和3年度 駿河台こども園 教育活動等に対する学校評価

令和4年3月30日

1 こども園の教育目標 …

明るく素直な子

- ・思いやりのある子
- ・進んで運動や遊びに取り組む
- ・自分で考え、のびのび表現できる子

2 本年度の重点目標 …夢中になって遊ぶ子

- 0歳児 安心して過ごす
- 1歳児 生活リズムを心と体で覚える
- 2歳児 安心できる環境の中で生活(遊び)に興味を示す
- 満3歳児 園生活(遊び)を楽しむ
- 年少児 友達と楽しく遊ぶ
- 年中児 遊びに喜んで取り組む 友達と楽しく活動する
- 年長児 進んで活動に取り組み、最後までやり通す
感じた事・考えた事を表現する

※評価点 4(十分に成果があった)・3(成果があった)・2(少し成果があった)・1(成果がなかった)

(No. 1)

評価対象	評価項目	自己評価			学校関係者評価委員 御意見
		R1	R2	R3	
1. 教育・保育の計画性	①園の教育理念・教育方針を理解している	3.1	3.3	3.3	子どもの自主性を大切にするように声かけを心がけた。
	②認定こども園教育・保育要領の理解に努めている	2.9	3.1	3.3	幼児部と乳児部の共通理解と連携があまり上手くいっていないように思うので、もう少し改善できる点があると感じる。(園庭の使い方・午睡中の遊び方など)
	③園の教育目標や教育・保育要領を元に教育課程や指導計画を立てている	3.1	3.2	3.3	すべての計画が出来るわけではないが、子ども達の様子を見ながら出来る範囲の計画を立ててきた。
	④乳幼児の発達段階や実態などをベースに、歳児ごとの指導計画を考え作成している	3.1	3.4	3.2	乳児期からとても大切なことなので、個々の様子をみながら目標をたて達成できるようにしている。
	⑤子どもの生活や動き・思いを大切に環境構成を工夫している	3.3	3.3	3.3	子どもの言動を見逃さず、今好きな遊びを拾い展開できるようにしている。ごっこ遊びが深まる環境をもっとよくなりたい。
	⑥幼児期の終わりに育てたい10の姿や小学校との接続を意識している	2.8	3.0	3.2	もう少し研修を積んでいきたい。個にあった言葉をかけるように心がけている。
2. 保育の在り方・子どもへの対応	①朝の登園時には特に視診を大切に、子どもの体調が悪くないか確かめている	3.6	3.7	3.7	朝、保育室に入ってきた時普段と変わらない様子を見るようにしている。マスクをしていることで表情が読み取れず、発熱等の症状にすぐ気がつかない。体温測定している一人ひとりの思いを受け止めたり、寄り添った言葉かけをする事を大切にしている。全体への声かけだけでは動けない子へ個別に声かけをし1対1で関わるなど配慮もしている。
	②一人ひとりの思いを大切に受け止め、個に応じた支援を心がけている	3.5	3.5	3.5	室内遊びは、担任の工夫次第で広がり深まると思う。戸外遊びは、乳児・幼児の園庭等の使い分けが難しく我慢する感じがした。又、園庭での怪我也多かった。考えたい。
	③遊びこめるような環境や時間への配慮をし、子どもの自主性・自発性を大切にしている	3.2	3.3	3.2	コロナ禍ではあったが、意図的な関わりを何回か設けることで、少しずつ自然な関わりが見られるようになったかと思う。
	④行事や活動を通して、子ども同士のかかわりや異年齢児との交流を大切にしている	3.1	2.5	3.3	乳児・幼児の間で、連携が取れていないことがある。全員が職員会議に参加できないことも原因の一つかと思う。来年度は夕方の職員会議を増やしたい。
	⑤教職員全員が、全園児について理解していくように工夫や努力をしている	2.9	2.9	3.1	担任以外がその子と関わる際に「こういう場合はこうしてほしい」等、具体的な対応方法を伝えてもらえるとういと思う。
	⑥支援の必要なこどもの教育・保育について、園で定期的に話し合う機会を設け、個に応じた個別の支援計画を立てている			3.0	年長児あたりでは、先生方の会話、仕事をよく見ている。楽しい会話を見せて欲しい。 ・教職員の意識の高さがわかる。外国人の扱いについての苦労は理解できるが、国を支える人材に成り得るとの意識でやっていただきたい。 ・子どもたちと接する姿は、まさに「プロの教育者」だといつも感じている。外国人の保護者も多いため大変だと思うが、通訳を活用するなど努力が伺える。 ・②について通訳が入るということで大きな安心につながると感じた。全国的にも外国人の保護者の孤立感は問題になっているので、一層の手厚い対応を期待したい。 ・外国人の方とのコミュニケーションツールを探したらどうか。
3. 教職員としての能力や良識・適正	①教職員としての話す力や聞く力の向上を意識している	3.1	3.2	3.2	声の大きさや話し方(声のかけ方)等、どうしたら聞いてもらえるか考えながら日々過ごしている。他の先生の姿を見て真似しながら自分に取り入れたいと思っている。
	②子どもや、保護者との対応には、公平さやかかさずに平等に接している	3.5	3.5	3.6	外国籍の保護者の方で思うように気持ちが通じない事があったが、特別に受け入れるようにしてきた。通訳の方を依頼したので活用していきたい。
	③自らの健康に配慮し、爪が伸びていないか等、保育上での安全性にも気を付けている	3.4	3.7	3.7	早く寝るようにしている。コロナ禍でもあり自分では健康面に気を付けているつもりです。

評価対象	評価項目	自己評価			学校関係者評価委員 御意見
		R1	R2	R3	
3. 教職員としての能力や良識・適正	④教職員同士のコミュニケーションを円滑にし、片寄った人間関係を作らないようにしている	3.3	3.3	3.3	コミュニケーションを大切にしている。すれ違いの職員もいるが、挨拶は欠かさないように心がけている。
	⑤子どものささやかな成長を見取り、それを喜ぶことができる	3.6	3.8	3.8	子ども達の成長を目の前で見られる。本当に幸せな仕事だと思う。成長を保護者にも伝えていきたい。
	⑥園の子どものことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	2.9	3.1	3.3	社会事象や自然の移り変わりも子どもにわかりやすく伝えたり、掲示したりして気づくように努力した。
4. 保護者への対応	①子どもの様子や園情報は、直接話したり、電話・連絡帳等を使ったりして保護者に適切に伝える	3.3	3.5	3.5	連絡のみの連絡帳などにも、園での様子をプラスして書くことが出来た。重要なことは、直接伝えたり電話で対応したりするようにした。
	②保護者との会話は、正しい日本語・敬語で語りかけ、相手の話には謙虚に耳を傾けている	3.1	3.3	3.3	保護者と話すときは共感したり寄り添ったりする声かけを常に心がけている。又、保護者が相談したいと思える相手になれるよう信頼関係の構築に努めている。
	③園児や保護者の個人情報の管理については園の方針に従い、情報が流失しないようにしている	3.6	3.7	3.8	しっかりやっています。デジタル情報も多く、コロナ禍でもあるので、特に気をつけている。
	④保護者からの具体的な意見・要望には適切に対応し、上司に連絡・報告・相談をする	3.6	3.6	3.6	自分だけで解決しようとせずに、周りに相談し最善な対応ができるように心がけている。
5. 地域の自然や社会との関わり	①園へ見学に来た人に、園の教育方針等を質問されても、きちんと答えることができる	2.9	2.9	2.8	きちんとまではいかないが、重要なところは伝えられる。
	②子どもの教育のために、利用したい地域の施設や機関、素材について理解している	2.6	2.7	2.8	あまり詳しく理解できていないため、もっと勉強が必要である。お散歩MAPを作り、お散歩コースも増えている。
	③地域開放や子育て支援について、具体的な内容を理解している	2.5	2.8	2.7	コロナ禍のため地域のイベントがなくなり、地域との繋がりが残念です。
6. 安心と安全	①ヒヤリハットの事例については振り返りを行い、大きな事故につながらないようにしている	3.1	3.3	3.4	しっかりやっています。振り返りをして、大きな事故に繋がらないようにしている。今後も、園で危険箇所があった場合は、全職員が把握し確認する事が大切である。
	②安全点検、検食、訓練等は適正に実施対応し、安全意識・防災意識を高めている	3.3	3.2	3.4	園舎内だけでなく散歩時のこともクラスでしっかり話し合う事が大切である。
	③健康で安全な生活を守り育てるために、感染症対策等に自ら取り組み、子どもや家庭への啓発に努めている			3.5	外からの入室の際は、石鹸で手が洗えるようにしている。
7. 研修と研究	①遊びと生活の専門性(職務の専門性)を高め、知識や技能を身につけるよう研修している	3	2.9	3.1	リモート研修や保育雑誌などから学んだことを職員に紹介し、研修の場を設けるように心がけている。
	②日々の実践を見合い検討・反省・評価を加え、教育・保育の質の向上に繋げている	3.1	3.2	3.2	テーマ研修に加え、自己研修課題にも取り組んでいる。
	③自分の教育・保育の在り方や悩みについて、同僚の教職員や上司等と話し合っている	3	3.3	3.3	子どものこと、対応方法等で悩んだ際には学年主任や講師に相談するようにしている。
	④専門知識や技能の他に、趣味や読書・ボランティア活動などにも関心をもっている	2.9	2.9	3.0	コロナ禍で最近はないが、好きなもののボランティアに参加したり、サッカー観戦を楽しんだりしている。
	⑤パソコンやタブレット・スマートフォンなどのICT機器を前向きに活用し、教育・保育の充実に努めている			2.8	苦手分野ではあるが、教えてもらいながら努力している。

<こども園の教育・保育をより充実していくための御提言>

〇コロナ禍で園に入って、先生方の姿や子どもたちの姿を見る機会が少なく、とても残念な一年となってしまいました。ただ、先生方の努力により、子どもたちは、夢中に遊び学べた一年だったと思います。今後も、教育方針等、揺らぐことなく、真摯に活動を進めていただければと思います。

〇「子ども」を専門とする大学教授等の話を聞くと、必ずと言ってよいほど「非認知能力の向上」を目指すべきと言います。与えられた音楽や遊び、工作ではなく、子どもたちが創造していく日常が求められているようです。既存のイベントや伝統を変えていくことは難しいと思いますが、新しい保育・教育の在り方として見直す機会があってもよいのではと感じます。(既に何度も検討を重ねているかも知れませんが…)園を巣立った子どもたちの意見を聞いてみるのも一策です。何が楽しかったか、心に残っているか、又は嫌だったのか…。大人の感覚とは異なる意見が出るかも知れません。これからの時代を担う「駿河台っ子」が伸び伸び育つ園環境を期待しています。

〇「園児そして教職員の皆様にとっても、安心・安全な教育・保育の実践」「個に応じた支援や個別の支援計画など、一人ひとりを大切にされた教育・保育の実践」を期待しております。

〇地域との交流がコロナ禍の前のようになると良いと思います。

〇〇元が見えるマスクが、幼児への反応により効果があったとのニュースレポートを拝読しましたが、検討しても良いのかと思いました。